建設防災
ボランティアニュース
第66号

目次

- 年頭の挨拶
- 普通救命講習会
- 後期道路施設等点検
- 勝鬨橋ミニツアー研修会
- 北北建所内研修会
- 現場見学会

年頭のご挨拶

我々の活動に到達点はない！

新年おめでとうございます。皆様それぞれ良いお年をお迎えになられたことと存じます。

昨年の国際情勢は米仏韓で新大統領が誕生しましたが、北朝鮮情勢の緊迫化、テロ事件の頻発、難民の激増など不安定と混迷の度合いを増し、また国内でも衆議院選挙で自民党が圧勝したものの、小池都知事の国政進出、野党再編成が大きな話題となり、安定には程遠い状況であったと考えざるを得ません。

都政も小池知事の動向に影響され、肝心のオリンピックの準備を始めとする喫緊の施策の進展に懸念を抱く方も多かったのではないでしょうか。内外を問わず、世の中がより平和で安定するよう願いたいと思います。

また昨年は私ども協会が設立20周年を迎えた年でもありました。創設期にご苦労された先人の方々に敬意を表するとともに、今日の協会の活動と体制を支える会員の皆様に改めてお礼を申し上げます。

しかし言う迄もなく、我々の活動に到達点はありません。防災という宿命的な都政の課題と会員の参加意欲が続く限り協会活動も継続し、その意味で昨年の20周年は節目というより、協会活動の継続意志の確認・共有という点に意義があったよう思えます。

幸い、昨年は国内では大きな震災はなかったものの、その発生リスクは年々高まりつつありますし、九州豪雨にみられるように近年の気象変動による災害も顕著になっております。新たな年を迎え、どうぞ会員の皆様には、ご家族、地域の方々ともども、改めて自然災害への心構えをお願いする次第です。

引き続き本年も協会活動に変わらぬご支援、ご参画のほどお願い申し上げますとともに、本年が平穏で道路整備保全公社、公園協会各位、そして会員の皆様にとって幸多き良い年であります様お祈りしまして、新年のご挨拶とさせて頂きます。

会長　杉浦浩

普通救命講習会開催

10月19日午後、普通救命再講習会が新宿消防署にて開催され、対象者14名が集合しました。東京防災救急協会の石塚講師のわかりやすい説明と熱心な指導のもと、3時間弱の救急救命の再講習を受け無事終了しました。

救急救命とは、傷病者の命を救うために行う「心肺蘇生」、「AEDを用いた除細動」、「気道異物除去」の 3 つの処置をいいます。私も3年前に初講習を受けましたが、用語の定義からおさらいです。テキストもガイドラインが2015対応になり、講師から内容の変更点などの説明を受けました。

実技では、心肺蘇生とAEDの使用による救命処置について再受講しました。3年

ぶりということもあり、自分なりに過去の講習を振り返りながら取り組みましたが、結構忘れてしまっていることもありました。

AED（自動体外式除細動器）は、空港、駅、スポーツ施設、デパート、ホテル、学校などのほか、最近ではマンション、町内会など、大勢の人が集まる施設などを中心に設置が進んでいます。しかしながら、救急救命講習を受講されていない一般の方などは、AEDは停止してしまった心臓を電気ショックにより再始動させる機器だと思い込んでいる方も多くいるようです。私も初受講前には、テレビドラマの影響かも知れませんが、そんな風に思っていました。除細動とは、「突然の心停止」の原因となる重症不整脈に対し、心臓に電気ショックを与え、心臓が本来持っているリズムに回復させるために行うものです。

AEDの使用は、最初は相当な不安がありましたが、操作は非常に簡単で、電源ボタンを押すと（またはふたを開けると）、機器が音声メッセージなどにより救助者に使用方法や手順を指示してくれます。また、除細動が必要ない場合にはボタンを押しても通電されないなど、安全に使用できるようになっています。講習会では、AEDと心肺蘇生を組み合わせた訓練も実施しました。

倒れている人を発見したら、周囲の安全確認を行い、両肩を軽くたたきながら「わかりますか」と3回ほど呼びかけて、反応の確認をします。反応がなかったら、周囲の人に「誰か来てください。あなたは119番通報してください。あなたはAEDを持ってきてください。」と大声で行います。

救急救命において、私たちに一番必要なのは正しい心肺蘇生の理解とAEDなどを使用する勇気だと痛感しました。倒れている人を発見したら、見て見ぬふりなどして放置せず、勇気をもって救急救命処置を講ずるという心構えを持つことが必要だと思います。また、そのためには、救命講習会を繰り返し受講することが重要だと思いました。

近年、大きな地震災害等が頻繁に起きています。震災や風水害等で、同時に多数の傷病者が発生したときは、平常時のように救急車を期待することは困難です。このようなときは、自主救護に努めなければなりません。

防災対策も日頃からの訓練が大きな成果をもたらします。救急救命に対しても、今回のような講習会を通じて習得した知識や技術が多くの人達の命を助ける原点になると考えます。

今後も、このような有意義な講習会が継続的に開催されることを期待するとともに、今回ご指導を賜った東京防災救急協会の石塚講師及び担当理事に感謝申し上げます。

北南建班　山崎二三四

後期道路施設等点検

後期の「道路の施設とバリアフリー点検」が11月10日から12月21日の期間で実施され、前期より2名多い60名の会員が参加し、今年度も無事終了しました。現役時代を思い出しながら、若手現職との交流も深まるこの活動は、私たちの経験や知識が活かせる貴重な機会です。ぜひ多くの会員の参加をお願いします。

詳細は下表のとおりです。

事務所	実施日	参加協会員
一　建	12/15	1名
二　建	11/16～30	7名
三　建	11/30	4名
四　建	11/15～28	10名
五　建	11/20～30	4名
六　建	12/6・12・21	3名
西　建	11/13～24	9名
南東建	12/12	9名
南西建	11/28	6名
北南建	11/10・14・15	3名

北北建	11/17	4 名
計	11/10～12/21	60 名

担当理事　久保田元久

苦労の跡がみてとれる―南東建

12月12日、南東建班（原田、丸岡、織田、武内、杉本、矢内、若尾、佐々木、柴田、以下敬称略）は平成29年度第二回道路徒歩点検を実施しました。当日は、「天気晴朗なれども風冷たし。」という空模様の中、会員各位の熱気により寒さを吹き飛ばしつつ点検を実施しました。

朝9時に事務所に集合し小松所長から、一年間のボランティア活動への感謝のお言葉を頂いた後、木下補修課長、中曽根統括課長代理、佐藤主事に挨拶し、本日の点検個所である芝溝街道の4．3km区間（山根橋～新袋橋交差点）について説明を受けた後、所のバスにて現地に向かいました。

起点の山根橋は境川と交差する神奈川県境にあり、当地を9時40分頃にスタートしました。点検は左側班（織田、武内、丸岡、矢内、柴田）と右側班（原田、杉本、若尾、佐々木）とに分かれて開始し、途中、並木交差点までが完成区間であり、当交差点から東側の相当区間が事業中区間にあたっていました。事業完成区間は、20年位の時間的経過もあり、街路樹であるケヤキ（？）も相当立派に育っていました。道路面や排水桝等はきれいに管理されており、問題はなく、一部の民地擁壁からの目地材のはみ出しや点字ブロックの剥がれ、不適正な置き看板等を若干見かけた程度でありました。これは、日頃から現役の皆様が適切な維持管理に奮闘している様が見て取れ、改めて敬意を表する次第であります。

また、工事課による事業中箇所では、途中、狭い片側歩道の箇所もあり、大型車も混入したかなりの交通量がある中で、工事課と補修課及び用地課等が協力しながら、道路の維持管理と用地買収、排水処理、拡幅工事等とが同時に進行するなどご苦労の跡がみてとれました。また、一部完成区間では、地中化も採用され、快適な道路空間も堪能することができました。引き続き、関係職員の皆様に御努力いただき、早期に事業完了できるよう念願しております。

4km余の点検でしたが11時40分頃には、終点の鎌倉街道と交差している新袋橋交差点に到着し全員による写真撮影の後、12時頃、無事事務所に戻ることができました。所到着後、小松所長、木下課長に本日の点検の終了を報告し、お世話いただきました中曽根統括課長代理、佐藤様に御礼の挨拶をして帰路につきました。駅への帰路には、いつものお店において参加者有志(6名)による懇親昼食会を盛大に開催し、来年度に向けての英気を養ったうえ、締めを行い終了しました。

末筆ながら誠に恐縮ですが本日の点検に小松所長様、補修課長様はじめ、補修課関係職員の皆様に、心より御礼申し上げますとともに、ご参加いただいた皆様、お疲れ様でした。

最後に、本年8月にご逝去されました南東建ボランティア仲間でありました田澤成雄さんのご冥福を謹んでお祈りし、締めとします。

南東建班　柴田賢次

勝どき橋ミニツアー研修会

●研修会の概要

勝鬨橋ミニツアー研修会が、11月27日（月）午後3時半から、東京都道路整備保全公社におい

て、協会・公社・建設局から合計46名の方々に参加いただき開催されました。

平成17年5月12日に開始されて以来、事故もなく順調に継続してきたミニツアーですが、12回目となる今回の研修会は大きな区切りとなりました。ご承知のとおり、来年から始まる勝鬨橋の塗装工事により、12月28日の案内をもって2年余りの一時中断となります。今回の研修会はこれを受けて、建設局より今後の工事予定を説明いただくと共に、中断期間中の新たな取り組みについて、会員の意見等を伺う場となりました。

冒頭の杉浦会長の挨拶に続き、御来賓の建設局の田中慎一道路保全担当部長、道路整備保全公社の東了一常務から、心温まる御挨拶をいただきまし た。

田中担当部長

東常務

道路整備保全公社の酒井担当係長から「平成28年度の案内実績とマスコミ取材等の報告」があり、続いて今年度は佐藤清美さんだけでしたが、10 年継続支援者に杉浦会長から感謝状が贈呈されました。

講演では、ミニツアー中断期間中の工事の概要と今後の予定について、道路管理部の加藤順一橋梁構造専門課長から「勝鬨橋の長寿命化工事について」と題して、詳細に御説明いただきました。

続いて、中断期間中の新たな取り組みについて、基本方針と、それを受けて検討中の具体案について担当役員が説明した後、意見交換を行いました。幸い参加者からは、多くのご意見やご提案をいただいたものの異論は出ず、改めて会員のボランティア意識の高さに心を洗われた思いでした。

議事終了後、場所を二庁4階職員食堂に移して懇親会が開かれました。新たに福永保全課長、新谷一建所長、道路整備保全公社の勝見総務部長、杉橋道路部長など、ミニツアーを支えていただいている方々も加わり、いつものように、賑やで和やかな懇親会となりました。担当理事一同心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

●中断期間中の取り組みについて

道路整備保全公社から、12月28日を以てミニツアーを一時中断するとの連絡を受けて以来、この中断期間をどのように乗り越え、再開の日を迎えるかについて、担当理事を中心に案を練り、臨時理事会で審議するなどして検討を続けてきました。幸い横溝理事長をはじめとする道路整備保全公社の皆様方の全面的な御支援を受け、建設局道路管理部にも御理解いただいて、新たな活動を提案することができました。以下にその概要を報告します。

まず前提として以下の方針を掲げました。

●ボランティア協会の社会貢献活動としてふさわしく、また対外的に協会活動としての社会的活動をアピールできるようなものとする。

●現行のミニツアーの枠組みをもとに、活動人数、活動回数、活動費用が現行を上回らない程度とする。

具体的活動案として以下を提案しました。

①通年の取組みとして勝どき橋の資料館を起点に、近隣の公園協会明石町船着き場から水上バスに乗船し、上流に向け、著名橋等橋梁群

および水門等河川施設を船上から案内・説明する。募集と案内体制は現行のミニツアーを踏襲し、月に1回（年12回）、案内者10～15名、協会支援者5名程度とする。

②スポット的な対応として、公社が主催する橋梁に関する展示会や見学会、イベント等において案内及び説明等を行う。

③毎年実施している研修会を継続し、工事の進捗説明会、現場見学会等を行う。

以上の内容について基本的に御賛同いただいたうえに、新たなご提案もいただきました。今後は2月末までにマニュアルの作成など具体的な取組み体制を構築し、3月に現場見学も含めた研修会を実施したうえで、4月下旬の新ツアー開始を目指します。

新たな活動は、従来のミニツアーの継続を目的としたものですが、更に水上バスへの乗船や河川施設等の説明も加わり、装いを新たにしております。従来の支援者ばかりでなく、新たに参加していただける会員を心よりお待ちしております。

勝どき担当理事　林幹生

北北建所内研修会

OBの経験談を若手職員に伝える

平成29年10月17日、入都3年以内の若手職員の能力向上と人材育成を図ることを目的として、北北建所内研修（北北塾）が開催されました。

協会からは、北北建班の藤井、飯塚、佐々木、野﨑、野村、林、藤江、吉原の8名が、北北建は、副所長はじめ管理職、若手職員を中心に36名が参加しました。

議員対応で急遽欠席となった奥秋所長に代わって佐藤副所長から「北北建では、入都3年以内の若手職員の育成研修として、北北塾を開催していること、今回が4回目であり、OBの経験談を若手職員も参考にしてほしい」等のご挨拶をいただきました。

協会からはリーダー（藤井会員）の挨拶、出席者の自己紹介の後、協会発足の経緯の説明や活動の報告（野村会員）を行いました。

北北塾の様子

講義では、協会から以下のテーマで、それぞれ20分程度の発表を行いました。

① また一緒に仕事をしたい人たち」（野﨑会員

②「Close call！（危ないところだった）ある先輩の「ぶっちゃけ話」（藤江会員）

③「心に残る道路監語録（PartⅡ）」（飯塚会員）

まず①では、用地課長時代の心に残る職員について、仕事への取り組み姿勢、段取りの良さ、引き出しの多さ等についてのエピソード。その反面、一緒に仕事をしたくない例として、正面から仕事に向き合おうとしない人、「ヒラメ族・評論家・メッセンジャー」の紹介があり、そういう人たちへの対応方法の説明がありました。最後に、「また一緒に仕事をしたいねと言われるように、人間関係・人との出会いを大切に」とのコメントがありました。

続いて②では、仕事上で経験した数々の危機一髪（ひとつ間違えば重大な危険におちいる、きわどい場合・状態）の事例紹介がありました。数多くの事例のため詳細は省きますが、それぞれのケースでうまく対応できたようです。危うさ回避の総括として、「周りの意見をよく聴き、上下左右のコミュニケーションを大切にする」とのことでした。最後に、「志を高く持ち、自分のやりたい事、取り組みたい事を決め、先を見据えて考え・行動するように」等のコメントがありました。

最後に③では、過去に仕えた道路監の様々な語録が紹介されました。「ピストルとミサイル」では、担当がだめなら上司というミサイルを使え、懸案を自分で抱え込まない。「寄せ鍋理論」では、煮えにくいものから先に鍋に入れるように、解決に時

間がかかるものから取り掛かる等、仕事の進め方のポイントについて、面白いたとえ話からの示唆がありました。最後に、「ゴールから逆算して、いつから何をしなければいけないか考えること」とのアドバイスがありました。

熱心に聴講する参加職員

意見交換では、「仕事を進めるうえで参考になった」「研修に参加してよかった」等の発言がありました。入都3年目までの若い職員のみなさんにとって、建設局 OB からのいろいろな経験を踏まえた話は、今後必ず参考になると思われます。

なお、所内研修会の前に、完成したばかりの黒目川黒目橋調節池を案内してもらいました。過去には工事中の現場を地上から視察しましたが、今回は、若手職員の前田さんの説明の後、地下調節池の内部や換気棟に入りました。施設の大きさに圧倒されましたが、黒目川流域の浸水対策が着実に進んでいることを実感できました。

黒目川黒目橋調節池の現場

今回の「所内研修会」の開催と現場視察の機会を提供していただいた、奥秋所長を始め北北建の管理職、関係職員の方々、そして参加された若手職員の皆様に感謝申し上げます。

北北建班　吉原一彦

現場見学会開催

―海上からオリンピック・パラリンピック予定地を視察―

快晴で絶好の見学日和となった11月7日（火）、海上から2020年オリンピック・パラリンピック競技会場予定地及び港湾施設を視察する施設見学会を実施しました。当初の参加申込者は70名と過去最高でしたが、会社の職務上の都合や会員の健康上の理由などでキャンセルが14名あり、当日の参加者は56名となりました。

午後1時、「新東京丸」の発着桟橋がある「竹芝小型船ターミナル」に全員集合し、協会から藤田が主催者として挨拶し、視察のガイドを代表してオリンピック・パラリンピク準備局の砂田施設担当部長からご挨拶をいただきました。

午後1時15分、「新東京丸」を背景に記念写真の撮影を行い、その後に乗船、船内で「新東京丸」の窓口として親身になって対応して下さった港湾局総務課の保川課長代理からご挨拶をいただきました。

午後1時30分、竹芝の桟橋を後に出発しました。港湾振興協会の石塚さんから、流暢な語り口で、日の出ふ頭、芝浦ふ頭、品川ふ頭、大井コンテナふ頭、中央防波堤外側コンテナふ頭、新海面処分場埋立地、青海客船ターミナルなどの港湾施設の説明がありました。

オリンピック・パラリンピック準備局施設整備第一課の淺田統括課長代理からは、総合馬術競技を行う「海の森クロスカントリーコース」、ボート・カヌー競技の「海の森水上競技場」、ビーチバレーボール競技の潮風公園、トライアスロン・水泳競技

のお台場海浜公園などの競技予定地の位置関係や整備状況が説明されました。

午後3時、予定通り竹芝の桟橋に到着しました。多くの参加者からは、初めて海上から港湾施設やオリンピック・パラリンピック競技予定地を見ました、臨海部における東京2020大会会場の概要がよくわかりましたといった声が聞かれました。

担当理事　藤田進

さながら社会科の授業

10月28日、東京オリンピックまで1000日のカウントダウンイベントが開催されました。東京港の東京ベイゾーンでは、既に海の森水上競技場など様々競技施設、選手村などの建設が既に始まっており、テレビや新聞では、オリンピック競技施設整備が連日のように取り上げられております。都庁 OB として私も無関心ではいられないと思っておりましたところ、「海上からオリンピック予定地を視察」という素晴らしい企画を立てていただき、是非にと参加してまいりました。

澄んだ青空、風も殆どなしの好天に恵まれた11 月7日午後、竹芝小型船ターミナルに、見慣れた仲間が続々と集まってきました。視察船「新東京丸」も停泊して、皆さんの顔には期待感が溢れていました。藤田理事の説明の後、ご多忙のなかわざわざ来ていただいたオリ・パラ準備局の砂田施設担当部長からご挨拶がありました。参加者全員で賑やかに記念写真を撮った後、いよいよ乗船です。

新東京丸の船内は、10m以上もある特大テーブルを真ん中に、立派な回転椅子が取り囲むように配置され、まさに大会議室と言った趣きで、窓からの風景はまるで映像スクリーンを見ているようでした。昭和58年竣功の当船は、イタリアに発注した新造船が来年完成するのを機に、廃船される運命だそうで、なんとももったいない気がしました。

新東京丸は出発して間もなく、日の出ふ頭、芝浦ふ頭を3時の方向（船の先頭が12時）に見ながら、レインボーブリッジ（桁下52m、延長3．75km、海上1．7km）をくぐると、続いて品川ふ頭、大井コンテナふ頭、9時の方向（左手）には青海コンテナふ頭が、次々にスクリーン現れてきます。港湾施設のガイドは、港湾振興協会の石塚さん、ふ頭ごとに取り扱う貨物の説明を丁寧にしてくれました。とても新鮮で社会科の授業さながら、大変勉強になりました。近年、大きなコンテナを載せたトラックが街中でも良く見られますが、停泊中のNYKライン（10万トンクラス）は、外国からの様々な品物を入れた10，000個近くものコンテナを積載できるのだそうです。しかし、日本から外国にそのコンテナを戻すときには何割かは空なのだそうで、やや複雑な思いになりました。東京港トンネル、臨海トンネルは羽田空港の空域の高さ制限との兼ね合いで橋がかけられないため海底トンネルになった、東京ゲートブリッジは同様に高さが制限され、大型船舶の航行にため桁下空間も65m確保した結果、あのキリンのような構造になったなど等、我々の古びた頭脳でなく、新鮮な将来ある子供たちに聞かせたいような説明でした。

オリンピック会場としても整備が始まっている中央防波堤埋立地のさらに南側は、東京港に確保できる最後の処分場となる予定で、処理容量を大きくするため大型浚渫船による浚渫作業やセメントで海底の地盤改良や行われていました。

船は新海面処分場埋立地を大きく左に迂回、中央防波堤外側埋立地を左に見ながら、巨大な東京港ゲートブリッジをくぐると、中央防波提内側埋立地が現れてきました。この外側埋立地と内側埋立地の間の水路が、海の森水上競技場（ボート・カヌー）になるところだそうですが、遠目でその施設工事の様子は残念ながら見られませんでし

た。この施設整備については、強風や返し波がレースに影響がでると競技団体から指摘され、小池知事が一時は宮城県内での開催を検討するなど随分話題の多い施設です。候補地がやっと決まった後も、建設費が491億円⇒298億円⇒308億円と二転三転、説明者のオリ・パラ準備局の浅井さんもやや気の重い説明でした。

船は海の森クロスカントリーコース(馬術:総合馬術)を9時の方向、つまり左に見ながら第二航路を進みました。青海コンテナふ頭のところで右旋回すると再びレインボーブリッジが正面に見え始め、左手には潮風公園(ビーチバレー:建設局の東部公園が整備、人気が高い競技だそうです)、お台場海浜公園(トライアスロンの水泳会場)、そして晴海ふ頭(選手村)が視界に入ってきました。浅井さんからは、施設の説明に加え、例えばトライアスロンの水泳、自転車、マラソンの距離など競技内容についても詳しい説明がありました。さすがです。

レインボーブリッジをくぐり見学会も終了に近づいたところで、Q&A の時間でした。X さんから「お台場の水質は大丈夫なのか」との質問が飛びました。浅井さんは「やはり来たか、その質問」とばかりにやや苦笑しながら「大丈夫です」と、公式見解がでました。ふ頭の「ヒアリ」の質問では、港湾局の保川さんが答えてくれましたが、その答えは？忘れました。

東京都からは「臨海部における東京2020大会会場」など、関係資料を用意していただき、砂田部長をはじめ、現役の職員の方、港湾振興協会の石塚さんなど、私どものために貴重な時間を割いていただいたことに、心から感謝したいと思います。最後に、このような素晴らしい企画を立てていただいた協会役員の皆さんにも感謝！ありがとうございました。

南西建班　井上幸夫

協会からのお知らせ

① 今年度の初動対応訓練は2月7日(水)に実施されます。奮って御参加ください。

② 各班の活動報告をお待ちしています。下記編集担当理事又は林まで連絡願います。
林アドレス(mikio.hayashi@okumuragumi.jp)

③ 協会のH. P(東京都建設防災ボランティア協会掲示板)には、最新の情報、ニュースのバックナンバー、建設局報などが載っています。
アドレス(http://tokyo-adv.info/)

＊＊＊編集後記＊＊＊

昨年末28日の勝鬨橋ミニツアーの最終日に開催した拡大忘年会。当日の案内担当に加え、会長を筆頭に会員有志、公社の方々も参加して盛り上がりました。

会長の「我々の活動に到達点はない。」の言葉を胸に、検討中の代替案からミニツアー復活へと、活動を繋げていくことが何より大事だと思います。

発行人　杉浦　浩
発　行　東京都建設防災ボランティア協会
新宿区西新宿 2-7-1
小田急第一生命ビル 20F
(公財)東京都道路整備保全公社内
編　集　高橋　紀男、林　幹生
堀内　康彦、丸岡　敏夫